

# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アキュラホーム本社屋	階数	地上8F
建設地	さいたま市西区三橋五丁目976番1他6筆	構造	木造
用途地域	準工業地域、第二種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	550 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年10月 予定	評価の実施日	2022年8月8日
敷地面積	5,824 m <sup>2</sup>	作成者	(有)野沢正光建築工房一級建築士事務所
建築面積	902 m <sup>2</sup>	確認日	2022年8月8日
延床面積	6,077 m <sup>2</sup>	確認者	(有)野沢正光建築工房一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 3.6**

**Q1 室内環境**

Q1のスコア= 3.6

**Q2 サービス性能**

Q2のスコア= 3.6

**Q3 室外環境(敷地内)**

Q3のスコア= 3.7

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.4**

**LR1 エネルギー**

LR1のスコア= 3.1

**LR2 資源・マテリアル**

LR2のスコア= 3.6

**LR3 敷地外環境**

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>事務所と展示場が入る木造ビルである。既存の周辺環境との調和に配慮した底のある表情が豊かな外観とし、加えて積極的な緑化を図ることで建築物の環境品質向上に配慮している。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>水平の庇による日射抑制、高効率設備機器の導入や、Low-Eガラスの採用等により環境負荷の低減を図っている。内装に木を用いることで、利用者が木のあたたかみを感じられる空間としている。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>ノンフロン断熱材を採用するなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
**アキュラホーム本社屋**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■評価ソフト:

CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>		-	<b>3.6</b>
<b>1 音環境</b>						<b>4.0</b>	0.15		-	<b>4.0</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40		-	
1.2 遮音						<b>5.0</b>	0.40		-	
1 開口部遮音性能		サッシ遮音性能T-2				5.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能		オフィスDr値=50				5.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-		-	
1.3 吸音		オフィス)床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板				<b>4.0</b>	0.20		-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>3.2</b>	0.35		-	<b>3.2</b>
2.1 室温制御						<b>3.5</b>	0.50		-	
1 室温						3.0	0.38		-	
2 外皮性能		窓:Sc=0.285、U=2.70、外壁U=060、屋根U=0.26				5.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御						<b>3.0</b>	0.20		-	
2.3 空調方式						3.0	0.30		-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>4.0</b>	0.25		-	<b>4.0</b>
3.1 昼光利用						<b>4.2</b>	0.30		-	
1 昼光率		2.5%≦[昼光率]				5.0	0.60		-	
2 方位別開口						-	-		-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策						<b>3.0</b>	0.30		-	
1 昼光制御						3.0	1.00		-	
3.3 照度		オフィス)500lx				<b>4.0</b>	0.15		-	
3.4 照明制御		オフィス)照度センサー採用				<b>5.0</b>	0.25		-	
<b>4 空気環境</b>						<b>3.5</b>	0.25		-	<b>3.5</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50		-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材を全面的に使用				4.0	1.00		-	
4.2 換気						<b>2.3</b>	0.30		-	
1 換気量						3.0	0.33		-	
2 自然換気性能						3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33		-	
4.3 運用管理						<b>4.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		全館禁煙				5.0	0.50		-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>		-	<b>3.6</b>
<b>1 機能性</b>						<b>4.1</b>	0.40		-	<b>4.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.6</b>	0.40		-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応		複数の通信事業者の回線を引き込み、配線スペースを確保しているなど				4.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画		円滑化基準を満たす				4.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性						<b>5.0</b>	0.30		-	
1 広さ感・景観		オフィスの天井高:2.9m以上				5.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		テラス+自動販売機				5.0	0.33		-	
3 内装計画		建物全体のコンセプトや機能が明確であり、事前に検証を行っている				5.0	0.33		-	
1.3 維持管理						<b>4.0</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		トイレは清掃しやすい内装材、外部の鉄部に亜鉛メッキ処理等				4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		建物の維持管理に適切な設備を設置している				4.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.2</b>	0.30		-	<b>3.2</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.4</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		鋼板25年				4.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水排水冷媒管の主要用途3種の2種以上にC以上を採用				4.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20		-	
2.4 信頼性						<b>3.4</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20		-	
3 電気設備						3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		耐震Aクラス				4.0	0.20		-	
5 通信・情報設備		メタルケーブル・Wifiアクセスポイント等通信の多様化、精密機器を地上階に設置など				5.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	基準階階高3.7m以上	4.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1≦[壁長さ比率]<0.3	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	EPS、ケーブルラック等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	EPS、ケーブルラック等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>5.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	<b>4.4</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			<b>3.2</b>	0.50	-	-	<b>3.2</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.0</b>	0.20	-	-	<b>2.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.8</b>	0.60	-	-	<b>3.8</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			-	-	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.22	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			-	3.0	0.22	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			5.0	0.22	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			3.0	0.11	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			5.0	0.22	-	-	
内装が乾式工法で分別性に配慮、OAフロア採用			5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ量の推計や、有価物の回収を計画など	5.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストを過半満たす、広告物照明がない	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	